

古民家

旧飛田家（国指定重要文化財）

この民家は、もと飛田徳有氏（茨城県常陸太田市）の所有でしたが、事情により当地に移築したものです。

飛田家の由緒については詳らかでなく、初代夫婦のものと思われる位牌に延享元年（1744）及び寛延元年（1748）の没年が記されており、この住宅の建立年代は、構造手法などから考えあわせると、18世紀前半と推測されます。

この住宅はいわゆる常陸地方によく見られる曲がり屋であり、別棟形式の民家との関連を知るために貴重な住宅です。

幾多の改造及び補修を経てきていますが、構造、平面等にはそれほどの変化もなく、よく旧状態を残していることと、現在茨城県下で知られる曲がり屋形式の農家の中でも最も古いものとして、昭和43年国の指定を受けました。



旧中山家（県指定文化財）

この民家は、もと中山太郎氏（茨城県坂東市）の所有でしたが氏の寄贈により当地に移築したものです。

中山家は、武士の出身で、江戸時代初期、辺田村に帰農したといわれ、代々辺田村の組頭などを勤めた旧家です。

この住宅は、猿島地方に多く見られる直屋といわれる型で桁行17.3m、梁間10.55mという大型農家に属しています。

住宅の建築年代については確証を欠きますが、解体修理中に発見された床板裏面の墨書に「延宝二歳寅二日…」とあったことから、延宝二年（1674）に建てられた可能性が強いようです。

幾度かの改造及び補修を経てきていますが、幸い軸部は当初の状態に残存し、保存状態も良好で猿島地方の大型農家の典型として、昭和48年茨城県の指定を受けました。



周辺 MAP



交通アクセス

- JR宇都宮線古河駅下車 タクシー約10分 徒歩約40分
- 東武日光線新古河駅下車 タクシー約10分 徒歩約40分
- 東北自動車道 久喜ICから約30分
- 羽生ICから約30分
- 館林ICから約20分
- 圏央道 五霞ICから約30分 境古河ICから約30分

インフォメーション

開園時間	日の出から日の入り 管理棟・野外ステージは9:00～17:00
定休日	なし 管理棟・野外ステージは12月28日～1月4日は休業
料金	入場料無料
駐車場	○700台 注) 無料 注1) 3月末から4月上旬の桃まつり開催期間中有料 注2) 有料期間については変更の可能性あり くわしくはお問い合わせ下さい。

古河公方公園（古河総合公園）

住所 茨城県古河市鴻巣 399-1

電話 0280-47-1129

URL <http://www.koga-kousya.or.jp/koga-park/>

発行 一般財団法人 古河市地域振興公社

古河公方公園は、古河市より指定管理者の指定を受け「一般財団法人古河市地域振興公社」が管理運営を行っております。※文化財、史跡、ジェラテリアを除く



古河総合公園

こがくほうこうえん
古河公方公園

季節の花々が彩りそえる自然と歴史豊かな公園

 トイレ
 休憩所
 水のみ場
 てくてく情報板
(毎月の公園の見所を紹介)

目洗井天池→虚空藏堂→若杉鳥子・長塚節歌碑
→徳源院跡→富士見塚→大賀蓮池→ジェラテリア→管理棟

管理棟→ジェラテリア→天神橋→筑波見の丘
→ホッツケ田→日和山→春草席→古河公方館跡→民家園

凡例 歴史を知る 地形を楽しむ 交流の拠点

渡良瀬川の堤防と同じ
標高 22mの高さに作ら
れている塚は、子供た
ちの芝すべりの場所と
しても人気スポットで
す。



※祝日の場合は営業。その場合は翌日休業
となります。また天候等により、臨時休
業の場合がございます。



このカフェテラス前には「雪華園」という、公園全体を象徴する「乾坤八相（ケンコンハッソウ）」の庭が水辺に繋がっています。
“天地人の相思相克が生成する有為転変の諸相”のさまが八疊に織り込まれています。



管理棟

時 間／9：00～17：00

定休日／年末年始

事務所（展示室、バーベキュー等の利用申請）
展示室（利用料金…1,120円／日）



至古河市街

ユネスコ
メリナ・メルクーリ国際賞
受賞記念碑

地名碑

表面に地名、裏面に由来を刻んだ地名碑が30基ほど立っています。
その場所のかつての字名、故事、デザイン
趣向にちなんだ名前が付いています。



民家園

時間／9：00～17：00

(12～2月は16:00迄)

休園／6～2月の月・火、年末年始

※祝日にあたる場合は開園。その場合、翌開園日を休園とさせていただきます。



自然と歴史 ふれあい散策

古河総合公園の軌跡

- 1455 年
 - 鎌倉公方足利成氏が古河に移り御所沼の畔に鴻巣御所を構える。以降「古河公方」と呼ばれる
- 1633 年
 - 土井利勝が古河藩主に
 - 桃林づくり
- 1770 年頃
 - 桃の植え替えを行ったことがきっかけとなり、花見の名所となる
- 1909 年
 - 観桃割引列車運行
上野・大宮・宇都宮・下館・佐野より古河駅まで往復 2～3 割引で運行。
- 1947 年～1951 年
 - 戦後の食糧難のため御所沼を埋め立てて水田化
- 1972 年
 - 大総合公園主要構想案
- 1973 年
 - 事業着手
 - 古民家移築（旧中山・旧飛田家）
- 1974 年
 - 桃林づくり、花菖蒲田づくり
- 1975 年
 - 一部開園（5.0ha）
 - 大賀ハス移植（千葉市寄贈）
- 1977 年
 - 第1回桃まつり
- 1992 年～96 年
 - 御所沼の復元・天神橋完成
- 1998 年
 - 管理棟・ジェラテリア完成
- 2000 年
 - 藤本軒氏より「星湖」刻字の寄贈
 - てくてく情報の揭示開始
 - 古河総合公園だより創刊
 - どろんこクラブが活動開始
- 2001 年
 - 公園遺囑吟句スタート
 - 第1回お茶つき体験と百席茶会
（後のふるさと古河新茶まつり）
- 2003 年
 - 「文化景観の保護と管理に関するメリナ・メルクーリ国際賞」受賞
（主催/ユネスコ）
- 2008 年
 - 古河総合公園ホームページ開設
- 2015 年
 - 愛称「古河公方公園」となる

花桃

江戸時代初期、古河藩主土井利勝（どいとしかつ）が、江戸で家臣の子どもたちに桃の種を拾い集めさせ、古河に送って領民に育てさせたのが始まりです。（領地では、燃料となる薪が乏しかったので、成長が早く、果実が食料となる桃が選ばれました。）この故事に基づき 1975 年の古河総合公園の開園を機に、花桃（花を觀賞するための桃）を植えて江戸時代を偲ばせる桃林を復活させました。園内では主に4種類の花桃を楽しめます。



大賀ハス

別名、「古代ハス」。千葉市で約 2000 年前の地層からハスの実3個が発掘され、その内の1個の発掘に成功。発掘にあたった大賀一郎博士の名にちなみ「大賀ハス」と名付けられました。古河総合公園の大賀ハスは 1975 年に千葉市からハスの根2本を頂き、その年の夏には花を咲かせ話題になりました。開花期間は6月下旬～8月上旬で最盛期は7月中旬です。



ハスの花の4日間 ※ハスの花は4日で散ってしまいます。



1日目 早朝 5 時頃から開き始め、トックリ型に開いた後、8 時頃には閉じ始めます。

2日目 深夜から開き始め、朝 7～9 時頃にはオワン型に満開。花の姿は最も美しく、正午頃には完全に閉じます。

3日目 2日目と同様、ただし、花色があせ始め、閉じても半開の状態です。

4日目 朝から、花びらが一枚づつ散り始め、昼頃までに全て散り終えます。

公方様の森と御所沼

鎌倉公方足利成氏（あしかがしげうじ）は 1455 年古河に移り、この台地に館を構えました。以降、「古河公方」と呼ばれ、五代にわたり約 130 年間、北関東に一大勢力を誇りました。古河公方館跡の石碑の東西には、当時の御所沼の堀と土塁が、趾をとどめています。

猿島台地の西端に位置する公方様の森。三方を御所沼に囲まれ、その独特の地形は、見る角度によって様々な風景を作り上げています。木々の間を抜ける散策路は夏でも涼しく、秋の紅葉や冬の雪景色など、四季折々に里山の自然を楽しませてくれます。



メリナ・メルクーリ国際賞受賞碑

桃の花をはじめ、四季折々の木々が植えられている古河総合公園は自然景観を生かした公園として 2003 年日本で初めてユネスコの「メリナ・メルクーリ国際賞」を受賞しました。



受賞理由

- ①消滅した沼の復元による自然と文化の再生
- ②四季折々の自然に親しむ市民の営み
- ③自然と人間との多様な接触を生むデザイン

どろんこクラブ

御所沼のほとりに作った『ホッツケ田』が事のはじまり。現在は、昔ながらの手作業で、お米づくりを楽しむ活動となっています。



もりもりクラブ

公方様の森のお手入れを中心に活動。キノコ栽培、植物観察会、野草園作りなど、公園の自然の中で楽しく汗をかいています。



注意事項

- ◆園内への自転車の乗り入れは禁止です
園内での自転車の走行は禁止されています。降りて押すか、駐輪場（管理棟脇）にとめましょう。
- ◆園内でのリールを使った釣りは禁止です
園内では、ルアーフィッシング、フライフィッシング、投げ釣り等のリールを使った釣りは禁止となっています。
- ◆バーベキューをするには許可が必要です
園内でのたき火などの火気の使用は禁止されています。また、バーベキューについては許可が必要です。管理事務所において利用申請をして下さい。なお、バーベキューをする際のルールなど、詳しくは管理事務所にお問い合わせ下さい。